

玉置神社旧参道の踏査と倒木処理

◇実施日 7月23日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、大森洋、阪口雄二、大江加予子・

徳子、畑林清子、生熊千満子、梶野照雄、瀧本昭太郎、

西克 11名

奥駈道を縦走する場合、大半の方は逆峰で吉野か前鬼からスタートされる。途中の深仙宿、行仙宿で泊り最終は玉置神社泊となるのだが、その玉置神社が「令和の大改修」中で参籠(宿泊、食事)が出来ない。テント、寝袋を持っていれば駐車場で宿泊が可能だが、荷物を軽くするためにテントなどを持ってこない登山者も多い。

従って、本宮までは行かず玉置山を終点とするか、十津川温泉へいったん降り翌日登り返して縦走を続ける形となっている。何かいい方法は無いか?との問い合わせもある。

現時点では玉置神社での宿泊が縦走者のネックになっているようだ。

この問題に適切な答えが出せない中、一番近そうな折立への下山道を歩いてみることにした。玉置山周辺の奥駈道は何十回と歩いているが、折立へ下る道は歩いたことがない。湯川君に話をしたところ「一緒に行きましょう」と言うことになり、4月5日に実行した。玉置神社駐車場から下り始める。近畿自然歩道の標柱があるいい道だ。下りばかりのよく手入れされた杉桧の木立の中で雰囲気もいい。

最近行政が整備したらしい道標も随所にあり迷うことは無いと思うが、村道や地凶には無い作業道が横切っているので注意が必要だ。旧国道165号折立の南都銀行跡まで1時間45分位だろう。若くて元気のある人なら1時間半で到着すると思う。



トイレ横からスタート

古道に入る

村道を横切る

行仙宿を早朝に出発すれば夕方までには折立に到着できるだろう。この登山道は山彦の行事でも取り上げていないし皆さんも知らないだろう。一度案内したいと思いい、本日の実行となった。

11名の参加があり、当日朝南都銀行跡に集合。少し登った八大竜王社前に車2台をデポし、玉置神社へ向かう。

この時間でも玉置神社の駐車場は8割ほど埋まっています、相変わらずの人気だ。午前9時半過ぎにトイレ裏第2駐車場手前から入山。すぐに近畿自然歩道の標柱があり、広くて雰囲気のある古道を辿る。6〜7分歩くと舗装されて村道が横切っている。切通を一旦村道に降り再び登って古道を歩く。ここが本日唯一の登坂になる。

登り切った所が平谷と込ノ上への分岐になっている。石標もあるがその先はかなり荒れていて、人が歩いた形跡は判然としない。調査した湯川君によると、この先は荒れていて通過しにくいし、村道で途切れたり動物捕獲用のワナが複数あるのどうかつに足を踏み入れない方がよい。とのことだ。



地図には無い作業道に新しい標識

登山口に下山

分岐から先はジグザグの下りが続く。足元はしっかりしているし杉林の雰囲気もいい。200m以上下った所で作業道に出る。広い作業道で小休止。道はいいし下りばかりで楽チンと思っていたが、ヤマビルの攻撃があった。歩いてきた道は沢浴いではないし、雨も降っていない。作業道には草も生えておらず一面小さな砂利道だ。表面が乾燥しているにも関わらず、吸血前のヤマビルが砂利の間を移動していた。こんな場所でヤマビル攻撃があるとは、驚きだ。この先もヤマビルに悩まされ、11人の内6名程が被害を受けた。阪口君は6匹、6カ所にヤマビルがくっついていて、被害を受ける人も

偏っているようだ。後100mほどで下山と言うところで、最後尾を歩いていた大森君が横切っている村道を辿ってしまった、一時行方不明になりヒヤッとした。暫くして大森君も復帰し、すぐに玉置神社駐車場へ戻る。車を回収して玉置辻へ移動する。



倒木現場に向かう

倒木を確認

日陰で昼食

本日の二つ目のメニューは倒木の処理。数日前に通過した椎木さんから玉置辻から少し大森山のほうに歩いたところに通過が難しい倒木がある。との情報を得ていた。昨22日に沖崎一人で現場に向かい根元の土を落とすなど、切除の準備をしておいた。現場を確認して一旦作業道に戻り日陰で昼食を摂る。

作業道から現場は40〜50mと近いので助かる。直径が25cm強のカエデと思われる木が枝先を下にして倒れ登山道を塞いでいる。道幅は狭く斜面は急で、足元は柔らかい。

根を切り離しロープをかけて引いてみたが、斜面からは落ちたが根元に近い枝の引っ張りがかかって動かなくなった。枝先

を切って引っ掛かっている箇所にはポールを差し込み全員で引くと
なんとか登山道の外側に移動することが出来た。しかし、木も大き
くズレ、登山道の半分ほどが無くなってしまった。
西さんが5mほどの丸太を探してきて崩れた谷側に置き、瀧本さん
が山側にロープを張って、今できる安全策を講じた。
後日にも何らかの対策を講じたい。



ロープで引っ張る

なんとか排除

崩れた登山道

30〜40分で処理できると思っていたが、ほぼ一時間かかって
しまった。

玉置辻に戻って次の行動に移る。当初倒木処理は無かったため、
午前折立迄。午後は玉置川迄のいずれも古道（参詣道）を歩くこ
とにしていた。少し遅くなったので急いで玉置川への下り口へ向か
う。チェーンが張られた作業道の入り口に車を止め、10名が玉置
川へ下る。沖崎は車の回収係に回り、10名を見送った後玉置川集
会所情報の墓地付近に移動して下山を待った。待っている間に地元

の方とお話し、周辺の古道や山の話となった。「あなた、大変申し
いですね」とお褒め頂いた。



玉置川へ下る

玉置神社へ二十丁

きれいな道

予想通り45分で皆さんが下山し、車の回収を湯川君にお願いし
て、到着後解散した。
(記：沖崎)

車を停めた場所から作業道を少し入ると町石が立つ古道が交差
している。ピンクリボンが打たれているが午前中の道のような道標
は見られない。地図が無ければどこに向かう道なのかは判らない。
道自体は歩きやすい道で、途中に迷うような分岐も無いので参詣道
としては及第点を与えられる。しかし帰ってからのGPSの軌跡を見
ると、地形図の道とは全く違う場所を歩いている。

地形図ではピークを通過しているが、今日歩いた道はピークを捲
いて通過している。昔は尾根通しで歩いてきたが、近年になって捲
き道が作られたのかは判然としない。
(記：梶野)



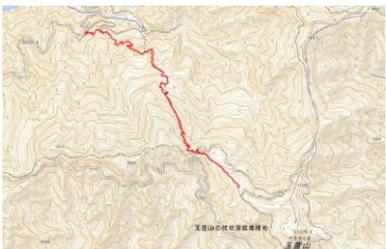
昭和の石仏



墓地に降りる



下山



折立へのルート



倒木現場



玉置川へのルート

行動タイム

- 09:30 玉置神社駐車場→11:19 折立上村道→12:13 玉置辻→12:28 倒木現場→14:10 倒木処理終了→14:36 玉置川下山道入り口
- 15:27 玉置川集落上→15:55 解散